

交野の農と農地を考える会

(愛称:かぼちゃクラブ)

交野の農と農地を考える会では、農地を「農業緑地」という言葉に置き換えて都市近郊農地がかかえる課題・問題点を、広く市民と共有し、農業者と非農業者が、自然環境という視点からともに手をたずさえ、実践的に交野の農業緑地環境を保全することを目指します。



「田園都市」返上!

交野にはもう田畑はほとんどありません

有機栽培塾開講 その1.

1. 農地を守ることを通じて交野の自然を守りたい

「交野の農と農地を考える会」(愛称:かぼちゃクラブ)では、農地を「農業緑地」と考え、農地を守ることを通じて交野の自然を実践的に守りたいと考えています。今回の有機栽培塾の開講は、そうした思いを実践する第一歩の取り組みです。

2. 農業は自然相手の仕事

私は、私市で有機栽培農業を営んでおりまして、当会の会長として、これから皆さんのお役に立ちたいと願っております。

そんな立場で、体験からまず申しあげたいのは、第一に農業は自然相手の仕事であるということです。工業と違って、気候やお天気任せ、自然の動きにあわせて段取りを決めなければなりません。人間の側の思い通り、計画通りには行かないのです。

3. 人間の側は条件を整えるだけ

第二に、人間の側は条件を整えるだけで、大きくなったり花を咲かせたりするのは、植物自身であるということです。うまく条件を整えば、よい作物が収穫できるだろうし、条件がだめなら、収穫もうまくいかないでしょう。

4. 「百姓はいつも新人」

第三に、そういう意味では、根気と研究心が、絶対に必要です。特に有機栽培では、条件が悪ければ、折角の新芽が、一夜にして虫によって全滅することもあります。がっかりして逃げ出したくなりますが、我慢して根気強く研究し、どうすればそれを防げるか、探求することが大切です。それが農業の面白さ、奥深さで、毎日が新しい経験といえます。「百姓はいつも新人」ということばがありますが、まさに、いつも初心の取り組みが大切です。

5. 作物の収穫以上のよろこび

こうした生活を一年も送れば、生活のリズム、テンポが変化し、おそらくサラリーマン生活や都会の暮らしとは異なった、せかせかしない生き方になるのではないかと思います。そうなれば、からだには良薬となって健康や心の癒しが得られ、作物の収穫以上のよろこびを感じていただけるのではないのでしょうか。



交野の農と農地を考える会

会長 中嶋泰人

有機栽培塾開講 その2



有機栽培塾開講
かぼちゃクラブ青山ファーム

安全・安心・健康野菜
ウン！美味いね！
自分でつくってみませんか？

私たちの栽培する野菜は【安全と健康】の観点で、人の健康は食料の安全が第一です。安全のために、土壌の改善、生物の共生、生態系を大切にするには、【農薬】の使用は避けたいです。それが【交野の健康と食料の安全】に繋がります。

※土壌の改善はかぼちゃクラブ

募集要項

- ※開催期間：青山町 交野市 2F 会議室
- ※開催日時：2020年1月18日（土）
- ※参加費：2000円（税込）
- ※参加資格：18歳以上、健康な方
- ※申し込み：12月15日（日）まで
- ※申し込み先：かぼちゃクラブ青山ファーム
- ※申し込み先：〒594-0202 交野市 交野 2F 会議室
- TEL: 074-740-0202
- ※お問い合わせ先：かぼちゃクラブ青山ファーム
- ※お問い合わせ先：〒594-0202 交野市 交野 2F 会議室
- TEL: 074-740-0202

説明会の場所 交野市青年の家

日時：平成20年1月18日（土）
13:30~15:00

場所：交野市青年の家
2F 206会議室

有機栽培塾の趣旨

- 1. 貸し農園ではないということ**
有機栽培塾は貸し農園ではありません。全員が、指導を受けながらほぼ同じものを作るを通じ、有機栽培を研究して実践的に習得していただきます。したがって、自分の耕作可能な畑に、好きな農作物を植えることはできません。また、このことによって、農地としての美観、美しい田園風景を残すことも大切と考えています。
- 2. ビジネスとしてやる 援農家を育てる**
急にはできなのですが、貸し農園のように自家消費のためだけの農作物をつくることは考えていません。なんらかの事情で農業をできなくなった人、田畑に対して支援できる援農家を育てることが本旨です。単に、農作物を朝市などに出荷するだけでなく、たとえば、交野ブランドの農作物を作ってその市場を作ったり、料亭が求める特別野菜を育てたり、農作物加工をしたりなど、農と食の融和をはかるなどビジネスとしての援農家を育てることを願っています。
- 3. 有機栽培、エコ栽培をやる**
食の安全、牧畜や農作物のトレーサビリティーが重んじられる昨今、困難ではありますが、ビジネスとしての農を、有機栽培、エコ栽培を通じ、かつトレーサビリティーを明確にして行うことにより、市場のニーズに応えていくことを念願としています。
- 4. 当面の農作物を、共同で販売できるしくみを模索する**
理想は理想として、当面、収穫する農作物は、ファーム朝市、観光客向け朝市など、参加者共同で販売するしくみを試行するなど、市場との接点をできるだけ多くし、ビジネス展開への糸口を探っていきます。

●受講風景



あなたも農地を守って交野の自然を守りませんか？
有機栽培で、ライフスタイルを変身させませんか？